

# 第3回 小中一貫校準備会議

## 議事録 要旨

- 1 開催日時 平成 26 年 5 月 8 日(木)19:00～20:50
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 参加者 小柳和喜雄（奈良教育大学教職大学院教授）  
諸岡健一（保護者代表）、角 義恭（保護者代表）  
吉川 太（自治会代表）、有山喜八郎（自治会代表）  
十文字良明（生駒北小学校長）、前川尚志（生駒北中学校教頭）  
富山二郎（教職員代表）、松島誠周（教職員代表）
- 4 開会あいさつ
- 5 質疑応答  
座長 : 前回の会議では小学校と中学校のどちらに施設一体型小中一貫校を設置するのがいいのかを話し合った。おおむね北中学校に設置するという方向で意見がまとまったが、それを受けて事務局に提案と報告をしていただく。  
事務局 : 前回の会議で通学路の安全確保を前提として、敷地利用の制約条件が少ない生駒北中学校に設置が決まった。校舎の位置については現在の位置に建てる方が良いと考えている。それは運動場を成形で使える、将来的な話として消防北分署跡地との一体的な利用が可能になる、という理由の為である。  
今後の設計スケジュールを示す。目的は、小学校から中学校まで一貫した教育方針のもと、地域に学び、確かな学力と豊かな人間性を身に付けた未来に生きる人材の育成のため、教育環境を整備することだ。想定した校舎は普通教室数が 12 学級で、これは今後の児童生徒数の推計に基づいたものである。管理諸室や特別教室等については指導課と協議したものを別紙 1 の資料で示した。生駒北中学校の校舎の解体工事は平成 27 年度後半、新校舎建設工事は平成 28 年度の予定だ。  
プロポーザルのスケジュールだが、6 月に審査委員会を設置し、仕様や募集要件を提示し、公表する。これが公示で、7 月と 8 月の審査で設計業者を決定する。その後約 1 年かけて準備会議の意見や要望を入れた具体案を検討するわけだが、プロポーザルを実施する時、あらかじめ「このような施設が欲しい」という条件を示すこともできる。  
別紙 1 の資料は一例である。学校や地元からの意見を伺いたい。  
参加者 : 敷地南側に校舎を作ると伸びる余地がない。小中一貫校のキーポイントの 1 つはクラブ活動である。運動場を広くとって子どもたちにいい環境でクラブ活動をさせたい。よって北側に校舎を建て

ることに賛成する。

参加者 : 隣接する民家や地域の方にご迷惑をかけることはできない。地域に支えられ、期待されている学校であることを肌身に感じている。

参加者 : 将来の発展を期待し南側に伸びていく余地を残す夢を描けるよう、市の考え通り敷地北側に建設する方がいい。

参加者 : 校舎の位置は中学生が1年半小学校で過ごす。ストレスを感じることがないように配慮してほしい。

参加者 : わたしも北側に設置することに賛成である。理科室、技術室の問題について市がサポートしてほしい。

参加者 : 移行期も子どもたちが充実した学校生活を送ることができ、不利益を受けることがないようにしてほしい。

参加者 : この会議がプールや体育館などの施設に関する不安を解決する場になってほしい。

参加者 : 仮住まいのことはプロポーザルに含まれているのか。

事務局 : 今後の検討課題だ。引っ越しや仮設について学校と話し合いながら一体的に進めたい。

座長 : 南側への設置は移行期には都合いいが、設置した後のことを考えるとそうではない。移行期間の課題について十分検討しながら設置した後のことを考えるべきというのが最終的な意見だった。

事務局 : こども園のプロポーザルは仮設園舎も含めてのものだった。それと同じようにするつもりだ。

座長 : 北中の敷地に建設する、今ある校舎のところに新校舎を建設するということでまとまった。

参加者 : 移行期間に関わる要望は、準備会議ではなく学校で出すということで理解している。

座長 : 建物についての要望を伺う。

参加者 : プロポーザルは12学級の規模で行うのか。将来学級数が増加することを考えないのか。

事務局 : 特別支援学級3学級を含んだものだ。基本的には12学級と考えている。急に学級数が増えた時には増築スペースへの増築などで対応する方法もある。

参加者 : 行政と地元が対話できる機会が5月初めにあった。小中一貫校の設置は通学路の安全が前提だ。地元の8つの自治会がまとまって働きかけるのならば行政が動くと言っている。地域力を高めたいので学校にコミュニティーゾーンを作してほしい。

参加者 : 昨日の職員会議で施設設備について職員が話し合った。家庭科室は被服室と調理室、図工室も低学年用と高学年用、それから外国語活動室も必要だ。全館冷暖房完備で、図書室には自習室と絵本の部屋がほしい。また、茶室、イベントホール、木や竹を活かしたスペース、ボランティア活動ルーム、格技室、プールは温水プールにし、クラブ活動に水泳を加えてはどうか。小学校としては遊具も充実させてほしい。予算もあるだろうが素晴らしい環境で勉強させたい。

参加者 : 中学校の先生の意見を聞いてきた。行事や校時が違うので、校舎は小学校と中学校で別棟にしてほしい。美術室や家庭科室等の実習教室は、できるだけ小学校と中学校で1つずつ欲しい。小学校ゾーンと中学校ゾーンに分けてほしい。トイレの数は十分確保してほしい。小学校と中学校でお互い授業の妨げにならないようグラウンド・体育館・プールも別にできないか。特に小学校には遊具や学童保育の施設が必要だ。体育館は中学校の用具でいっぱいであるし、雨の時も小中一緒だと入りきれないので困る。プールは屋上に設置するといった工夫も必要だ。作品管理ができるよう図工室や美術室、技術室や家庭科室は広くし、準備室も必要だ。理科室は小中学校1つずつでは足りない。児童生徒数が少なくても実験に必要な器具は多い。小規模校でも大規模校と同じである。

- 参加者 : 学校の要望に優先順位をつけるとよい。絶対に必要なものとあればいいと思うものを明確にすべきである。
- 参加者 : プロポーザルの理念に環境を入れるべきだ。理念は施設とカリキュラムの両方についてだと思う。エネルギーの勉強だけでなく農作業を通して食べ物について考えられるような施設がほしい。ここは環境保全を目的とした市街化調整区域で、新しい住宅が建てられない。だから環境との関係をきちんととらえられる教育が必要だ。また、先端科学技術大学院大学がありインターナショナル、国際的な教育を望む。
- 参加者 : 優先順位をつけることに賛成する。保護者からの意見は小学校教職員の意見とほぼ同じだ。他には天体観測施設や宿泊施設、部室も欲しいという声もあった。
- 参加者 : 運動場に 50m×2 程度のタータンコース、熱中症対策として空調設備を整備し、シックハウス症候群にも配慮してほしい。
- 座長 : 現実対応と未来志向を重ねながらデザインしなければならない。使いやすいというのは現実対応で、指導者の使いやすさを優先すると建物は新しいが従来と何ら変わらない施設になる。新しいものばかりを追うと使い勝手が悪く、デザインが現実には追いつけない。こんな子どもに育てたいという願いと合致する施設、この学校でよかったと思う施設をプロポーザルに入れるべきだと考える。環境が子どもたちに働きかける力は大きい。欲しい施設はいっぱいあるがどこかで折り合いをつけないといけない。
- 参加者 : 教室を広くしてほしい。広いと子どもにもゆとりと落ち着きが出てくる。子どもの荷物を置くスペースが広いのが学びやすい環境である。
- 参加者 : 中学校教職員からはもっとたくさん要望が出たが、学校施設は法律に従って作られるものなので無理なものもあろう。しかし、地域の方が交流できる場所は欲しい。たくさんの人が集い、世代交流ができるようにしたい。また、高山地区に育った子どもとしてお茶をたしなめないようではだめで、卒業までに茶道の知識や技術を身に付けさせたいと校長は言っている。
- 座長 : 今日の意見がプロポーザルに反映されるようにと考える。前回の会議で取り上げられた通学路の安全確保に関わって事務局から話をしていただきたい。
- 事務局 : 4月17日に奈良県の郡山土木事務所と生駒市の事業計画課で会議が持たれ、これまで2回の準備会議で出された通学路に対する意見やスケジュールなどを伝えた。この会議を受けて5月2日に生駒北小学校区8自治会連絡協議会、郡山土木事務所から計画調整課、生駒市から事業計画課が参加し、市役所で意見交換が行われた。まず、今年度中をめどに話し合いの場をもうけ、地元、県、市の協議を進める。意見交換は、「今、どんなことに困っているのか」や「地域の将来を見据えて、安全・安心な暮らしのために何が必要か」といった観点で行い、地域の声を形にしていく。また、必要に応じて市の担当課（教育総務課、スポーツ振興課）にも参加してもらうことなどが話し合われた。
- 参加者 : 8自治会がまとめ要望していたことを受けて、5月2日の話し合いが実現した。  
河川については、国道163号線以北の河川改修計画を考える、道路については、交通量が減少しているのが難しいが、まずワークショップを開催することになった。地元としては現在と20年後を想定して通学、通勤、通院等の移動について悩みを話し合い、「県・市・地元のまちづくり会議」で地域にとって必要なものを取りまとめ、予算化に繋がる流れを26年度内に目指すことになった。

生駒市北部スポーツタウン構想エリアについては、学研北生駒駅から現地までの路線バスの充実と自転車道や歩道の確保、対面通行が可能な車道の確保について、生駒市の調査を受けて県が検討に入る。高山スーパースクールゾーン構想エリアについては、県道西側の歩道が未整備あるいは狭くて凹凸を繰り返す箇所がある。出店橋から芝にかけて一連の歩道空間を確保することが望まれる。また、小中一貫校の校門とバス停をつなぐ歩道ルートを選定も課題である。

宮方バイパスについては、バイパス曲線部分の安全性、バイパスと県道の車の走行方向、宮方橋や交差する市道の安全性を議論する。国道 163 号線バイパスは、平成 27 年度に高山大橋交差点の暫定供用を前に関係者の取り合い部分の調整と暫定供用に向けた相互確認を実施する。学研北生駒周辺のまちづくりについても「まちづくり会議」の動向を受けて議論する。

これらのことを通学路の安心安全の確保とともに地域の街づくりとしてあたっていきたい。

## 6 事務連絡 (事務局)

次回の開催については協議内容を考え、日程を調整する。